

折に触れ 四字熟語

NO. 119 『三心二意』 さんしん じい

< 意味 > 気持ちが定まらず、あれこれと迷うたとえ。気持ちや意思が一つに定まっていないこと。また、それぞれが自分の意見を主張して考えが一つに定まらないこと。

< 出典 > 論衡「調時」
「・・・」

夫天地之神、用心等也。人民無狀、加罪行罰、非有二心兩意、前後相反也。
・・・」

読み下し： 夫れ天地の神、心を用ふる等しきなり。人民無狀なれば、罪を加へ罰を行ふに、二心兩意有り、前後相反するには非らざるなり。

通 釈： そもそも天地の神の心遣いはおなじである。人民が不作法であれば、罪名をつけ処罰をする場合、心を使い別けして、前後によって反対になることはない。

語 釈： 「無狀」は礼儀に欠けていること・さま。無礼。

一 言： 漢数字シリーズ その3

出典によれば、「二心兩意」となっていますが、「兩」は「二」に通じますから「二」に、それに伴って「二心」の「二」が「三」に変化したのでしょうか。「再三再四」のように異なる数字を並べると、たたみかけるような説得力が感じられますね。

参照文献： 明治書院・新釈漢文大系「論衡」下 岩波書店「四字熟語辞典」